



和光市政を耕す

たがや
市政に新たな種をまき、
芽を育てよりよい街にしよう！

<討議資料>
2022年4月発行

VOL. 47

たけちゃん通信

前 和光市議会 議長 吉田たけし



3月21日から「まん延防止等重点措置」が解除され以前の日常が戻り始めていますが、皆様におかれましては引き続き「三つの密」を徹底的に避ける「人ととの距離の確保」「マスクの着用」「手洗いなどの手指衛生」等の基本的な感染対策の実施をお願いします。
一日も早く平穏な日々が戻りますよう心よりお祈り申し上げます。

吉田武司

「和光市・不祥事の再発防止にかかる対応方針」について

令和3年12月22日（水）に「和光市職員による不祥事の再発防止に関する第三者委員会」から調査報告書が提出され、市は、市民の信頼回復に向けて調査報告書を踏まえた再発防止策を早期に実施するため、「和光市・不祥事の再発防止にかかる対応方針」を策定しました。

対応方針では、調査報告書において不祥事の原因とされる不適正な人事管理による「権限の集中」、パワーハラスメントなどの「職場環境の問題」、業務手続にかかる「職員資質の問題」に加え、不正を組織的に監視する「内部統制」及び「実施に向けた体制づくり」の視点で再発防止対策の検討・実施の方向性を示しました。

また、その再発防止策を「令和4年4月から実施」するもの、「1年内に実施」するもの、「市長の任期中に実施」するものに分類されました。

「和光市・不祥事の再発防止にかかる対応方針」

I. 権限集中の是正に向けて

(1) 人事ローテーションの見直し 【令和4年4月から実施】

- ・マネジメント層の長期在任による権限の集中を是正するため人事ローテーションを厳格化する。
(例えば、部長職の在任期間を原則2年、最大3年とするなどの厳格化)

●本当に、在任期間を厳格化することで、組織が活性するのでしょうか？例えば、区画整理事業や、小・中学校の再編には長い期間での粘り強い交渉や、地権者との信頼関係が必要となってきます。期間を厳格に区切ることで、逆に、難しい案件は、在任期間中にチャレンジせずに、事業が硬直化することがあるのではないかでしょうか。

(2) 組織の見直し 【1年内に実施（令和4年10月）】

- ・予算等が集中する福祉分野の権限を分散化するため組織体制を見直す。

●権限の分散化も必要だと思いますが、職員に負担が掛かっているのではないのでしょうか。
そういうことも、しっかりと見直していくべきです。

(3) 副担当制度の導入 【市長の任期内に実施】

- ・業務のブラックボックス化の防止、チェック体制の強化を目的に業務内容に応じて主担当、副担当の新たな複数体制を導入する。

●副担当制は、これまで実際にやっていたのでは？

2. 職場環境の改善に向けて

(1) メンター制度の導入 【令和4年4月から実施】

- ・風通しの良い職場づくりと不祥事の発生を抑制するため、職員の相談しやすい環境をサポートする職員間のメンター制度を導入する。

(2) 通報窓口の外部化 【令和4年4月から実施】

- ・ハラスメントや不正行為の内部通報に適切に対応できるよう通報窓口を第三者の弁護士とするなど外部化をする。(現在対応していない匿名による通報についても対応)

●今までしていなかったことに驚きます。すぐに実施すべきです。

(3) マネジメント層への外部人材の登用 【市長の任期内に実施】

- ・マネジメント層のポストに民間等の外部人材を登用し、管理体制の強化と職場風土の改善を図る。

3. 職員資質の向上に向けて

(1) 研修制度の見直し 【令和4年4月から実施】

- ・文書主義の徹底やハラスメントなどの防止に向け既存の研修制度の充実を含め制度を見直す。(民間、他自治体など外部機関への派遣研修の創設)

●しっかり、やってもらいたいです。

(2) 能力主義の徹底 【令和4年4月から実施】

- ・職員の士気を高め競争性による能力の向上を図るために、年功序列や性別にとらわれないダイバーシティの確保に向け能力主義の徹底を図る。

●職員一人一人の能力を上げていくことが大切です。やる気のある職員を登用していくことが大切です。

●正規職員を若いうちからしっかりと育てる土壌を作ることが必要ではないでしょうか。

4. 組織統制の向上に向けて

(1) 内部統制制度等の導入検討 【1年内に実施】

- ・都道府県、政令指定都市に義務付けられた内部統制制度について和光市に適した制度を導入の可否も含め検討する。また、行政監察制度についても同様に導入の可否も含めて検討する。

(2) 監査制度の見直し検討 【1年内に実施】

- ・現行の監査制度について検証し、外部監査制度の導入の可否も含め監査制度の見直しを検討する。

(3) 業務手続の総点検 【1年内に実施】

- ・現金管理、決裁・承認プロセス、業務規程・手順など業務手続の適正化を図るために、不祥事を踏まえ既に改善したものも含め総点検を実施する。

5. 再発防止策の実施に向けた体制づくり

(1) 職員定数の改善 【市長の任期内に実施】

- ・再発防止対策の確実な実施と職員の働き方改革のために、職員定数を概ね10%を目標に増員する。

●和光市は、職員数が極端に少なすぎます。人件費を減らす方策として、充分な正規職員を雇用してこなかった結果です。職員に業務のしわ寄せが来ていることは事実です。非正規職員を多くしてきたことも問題です。他の自治体とそん色のない数の正規職員を増員し、育て上げることが大切です。

(2) プロジェクトチームの設置 【令和4年1月に実施】

- ・対応方針に基づいて再発防止策を検討するプロジェクトチームを庁内に設置する。

●プロジェクトチーム設置も良いですが、今一生懸命働いている職員の声を吸い上げて、現場目線での改革が必要です。話し合いのできる、風通しの良い組織づくりをしなくてはなりません。



自動運転サービス導入に係る経費を計上した令和4年度一般会計予算が可決されました

令和4年度埼玉県和光市一般会計予算には自動運転サービス導入に関する1期区間専用レーン整備工事等に係る経費約3億円が計上されたことから、一部の議員から自動運転サービス導入事業に係る経費を減額する旨の修正案が出されました。採決の結果、可否同数であったため議長の決するところにより原案可決となりました。これにより、今年度中に自動運転サービス導入に係る1期区間専用レーン整備工事が行われることが確実となりました。

住民への周知が不十分であり、地域の多くの住民が計画を知らないままであること、また、計画を知った住民のなかには、緑の保全や騒音振動等の環境面の問題や二車線化による道路横断時の危険性などについて、疑問の声が多く寄せられています。

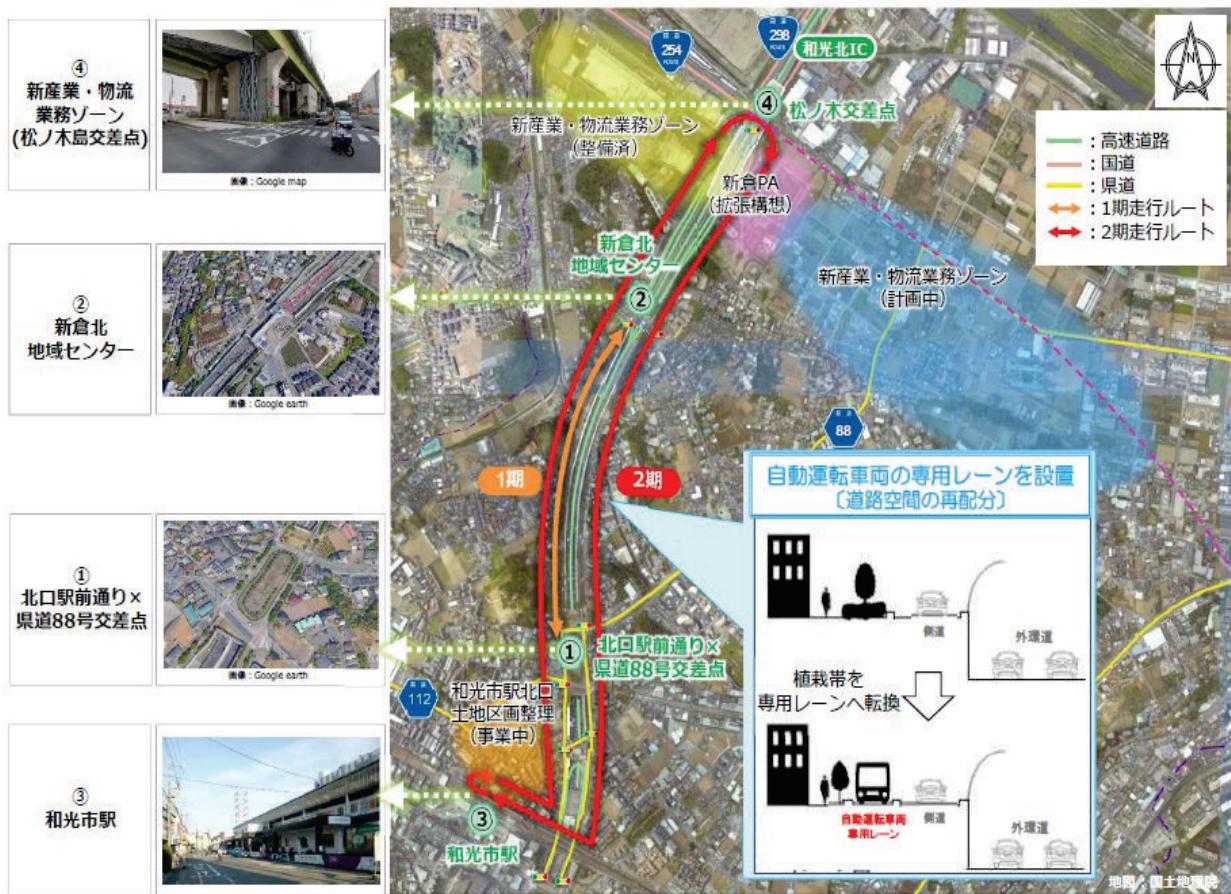
最終的には新倉ロータリーより北側の外環側道を実質的に二車線化するようです。



過去の経緯を考慮しないで二車線化を進める市の姿勢には疑問を持たざるを得ません

当初、東京外環自動車道と国道298号はセットで和光市内を縦断する予定でしたが、地域コミュニティの分断や生活道路への通過車両の流入による環境悪化等が懸念されることから、市民の総意として国道298号を松ノ木島で止めたという経緯があります。そして、排ガスや騒音対策のための街路樹や広い歩道が完備された外環側道は和光市民へのサービス道路として整備されたものです。

このような経緯を踏まえれば、市民の意見を聞かずに二車線化を進めることはできないはずです。二車線化すれば、歩行者や自動車が外環側道を横断する際の事故が増加する恐れがあります。また、一部を二車線化したところで物理的に二車線化できない箇所もあるため、二車線から一車線への合流等により交通渋滞はさらに大きくなり、さらに騒音振動や排ガスを周辺地域にまき散らすことになるのではないかでしょうか。





まちづくりは長期的な展望に立って進めるべきです

市は、自動運転サービスを導入するもうひとつの理由として高齢化によるドライバー不足をあげています。本当にそうであるならば、最終的には既存のバス路線も維持できなくなってくるため、自動運転バスを市内全域で運行させなければならなくなります。あるいは、運転免許が無くとも誰もが自動運転車両で移動できる時代が来るかもしれません。

そういう将来を考えると、人も車両も安心して通行できるような交通インフラが整備されていることが重要になってくるのではないかでしょうか。市が本来やっていかなければいけない仕事は、外環側道を二車線化して自動運転車両を走らせるこことではなく、狭隘道路の拡幅や都市計画道路等の整備などを地道に行っていくことなのではないでしょうか。



「和光版 MaaS（マース）自動運転サービス導入事業」をこのまま進めて良いのか

この事業は第四次総合振興計画への位置づけや予算の裏付けもなく、市長決裁で未来技術社会実装事業に応募し、市民や議会への説明は後回しにされるなど、なし崩し的に事業が推進されています。この点について、一般質問の答弁で副市長は「上位計画に位置付けられているかどうかよりも、自由な移動を早く現実のものとしてほしいという市民要望を受け、それにマッチするものがこの制度であると判断をして応募した。また、議会への説明が無いとのことだが、まだ採択されるかもわからない確実ではないものを説明し、それがどんなハレーションを起こすかどうかもわからぬいため、正式に国からの採択を受けてから議会に説明するという考え方であった。」と答弁しました。

未来技術社会実装事業は、市として実施することが、決定している事業について応募することが大前提となっています。外環側道北側に自動運転を導入するための具体的な市の計画は、すべて後追いで策定されています。

計画行政、財政民主主義、市民参加の視点などがすべて欠落しています。

※要望が多いのは市内循環バスの増便です。



自動運転サービス導入と外観側道の二車線化は別の問題です

将来のドライバー不足を見据えて自動運転導入の実証実験をするなら、わざわざ二車線化しなければならない外環側道ではなく、別の道路で実験すればいいのでは？

市の交通問題である国道298号や国道254バイパスからの通過車両の流入については、外環側道の二車線化がよいのか、県道等の拡幅を県に要望するのがよいのかなど、客観的データに基づいて本質的な議論をすべきであると考えます。国からの補助金がもらえるから外環側道を二車線化しようというのではなく、市民のことをまったく考えていません。

みなさんも「市長への手紙」などを通じて意見や要望をだしましょう。

市政に対するご意見・ご要望、またなにかの時には、なんでもご遠慮なくご相談ください。皆さんと一緒に考えて行きます。

吉田たけし後援会

会長 柳下 茂

この会は、吉田たけしさんを中心に明るく、楽しく元気なまちづくりを目的に、会員相互の研修と親睦を行なっています。

入会無料です。入会いただける方は下記にご記入の上、この面をFAXしていただくか、吉田たけしオフィシャルサイトより必要事項を記入の上、送信してください。

吉田たけしの今を伝える。

日々の活動をSNSを使って配信しております。

FAXの方はこちら ご記入上そのままFAXしてください。

お名前	
ご住所	
ご連絡先電話番号	
携帯	
メールアドレス	

インターネットの方はこちら

PC、スマートフォンからも可



<http://takechan-yoshida.jp/new/kouenkai.html>



ホームページ



Facebook



ブログ



Twitter